



つまごいむら

農業委員会だより

第45号

平成31年3月15日

編集・発行／嬬恋村農業委員会 ☎ 0279-96-1256



嬬恋村農業委員会
会長 小嶋 良一

農業委員会だより 発行にあたり

今年の嬬恋村の長い冬は極端に気温の高い日があるかと思えばマイナス14℃の気温が低い日があるなど不安定な日が続いておりますが、農家の皆様におかれましては日々ご健勝のことと拝察致します。また、日頃より農政業務、とりわけ農業委員会活動に格別のご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年11月初旬に農業委員会では、農用地の利活用に関する調査を行いました。調査に際しまして、皆様にはご協力頂き誠にありがとうございました。また、9月から10月には農地利用最適化推進委員と農業委員とで農地パトロールを嬬恋村全域で実施し、遊休農地・荒廃農地について調査しました。特に、農

地が山林・原野化してしまい農地として再生できない・耕作できない農地については現況確認をした上で、12月の定期例農業委員会にて589筆の非農地判断を決定致しました。非農地判断を行つた農地の所有者の方へは農業委員会より順次通知を発送しております。ご不明な点がございましたら農業委員会事務局へご相談下さい。

いま耕作している農地を遊休農地にしないためにも農業委員と農地利用最適化推進委員が連携をとりながら積極的に働きかけて農地の有効活用を図つていく所存です。

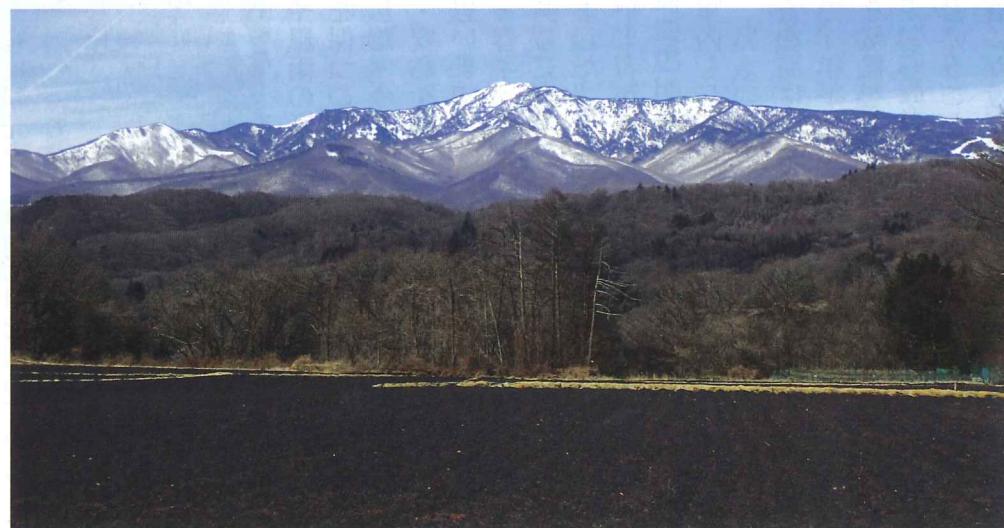
次に、農業委員会全体の取り組みとして、農業者年金の加入推進を行つています。自ら支払った保険料が将来の年金給付に使われる積み立て方式の年金ですので安心して積み立てられます。支払った保険料の全額が社会保険料控除の対象になります。効果的に節税になります。非常に魅力的な制度でありますので是非とも加入して頂きたいと思います。

また、新聞等でご案内等のとおり、改正出入国管理法の成立を受け、本年4月から新たな外国人の雇用に

関する制度がスタート致します。従前の技能実習生制度とは違った形の受入れが可能となるようになりますので、本村における農繁期の労働力確保について、大いに期待するところであります。

終わりに、当農業委員会は、

関係諸団体と連携を図りながら委員が一丸となって、農業委員会の必須業務でもあります「農地利用の最適化」に努めていきますので皆様方のご支援・ご協力を願い申上げます。



春の植え付けを待つ畑と四阿山

農業委員会視察 研修に参加して

月半の新豊洲市場場内を見学しました。渥美半島の質・形など素晴らしいキャベツを見ながら二階から見下ろすと、国内外からの人の波があり、小池知事が食事をした寿司屋には長蛇の列ができていました。新豊洲市場の人気は計り知れません。新豊洲市場を後にして、バスは鶴岡八幡宮へ、旅の安全を祈り「パチパチ」。ガイドさんの案内のあと今宵の宿へ、それにしても暖かい。ホテルの窓を開けて寝ても丁度良いくらいです。

35セントの13セントで一反1,800ケースを出荷するとの事です。最近は、キヤベツに代わってきているといいます。キヤベツの出荷も6月25日頃までということで、产地間の競合もしないようですが。農家戸数800戸、一戸7haを年間2・5回まわすといい、実習生制度の話も農家サイドから出ていると言

12月3日・4日県外視察研修に参加しました。早朝7時に嬬恋を出発、一路日本の中核新豊洲市場へ向かいました。オープニングして1ヶ月半の新豊洲市場場内を見学しました。渥美半島の質・形など素晴らしいキャベツを見ながら二階から見下ろすと、国内外からの人の波があり、小池知事が食事を



農業委員
由村 明彦



農洲市場

いますが、受け入れ農家はまだ1軒だけとの事です。海に囲まれている三浦半島は、台風の塩害や強風の被害に備え2枚・3枚と作物を守るために被服するといいます。が手間が半端ないです。風が強いのでプラグ苗は普及しないらしいです。露地野菜産地の宿命なのか、台湾リスやハクビシン、カラス等の被害も深刻だそうです。「どのの产地も大変だー。」離農者も多いのが、畠は借り手が多いので常に空かないらしいです。栽培意欲が大きいにあるとの事です。近年温度が上昇傾向ですが、露地野菜产地の技術が問われていくのかなと思いまして。今回の研修に参加した委員13名、事務局1名には大変お世話になりました。

場内は当然新しく整然とした。更に温度を適切に管理ができる閉鎖型施設になつていて、商品を高温や風雨の影響から守り、鮮度を保つことが可能とのことでした。今まで以上に食の安全・安心を確保できる市場だと思います。

12月3日・4日の視察研修に参加させていただき、開場間もない豊洲市場の見学と三浦半島の視察を行つてきました。

大根・キヤベツは全国的にも有数の産地となつており、現在もキヤベツの定植が行われています。耕地面積は約1,200haですが、カボチャ・スイカ・カリフラワーなどの間作を上手く取り入れ、年間2.5作の栽培体系で圃場の有効活用を図っていることに驚きました。

の農業視察をしました。JA三浦市本店で、担当者から三浦農業全般の概要説明を受け、圃場視察の案内もしていただきました。

三浦半島は三方を海に囲まれた海洋性気候で、年平均が約16℃と、温暖な気候を活かした露地野菜中心の農業が盛んなところだということです。特に冬から春にかけての

三浦市農協での会議

農業委員会視察 研修に参加して



農地利用最適化推進委員
市場 俊喜

12月3日・4日に、農業委員会視察研修に参加しました。1日目は、東京の豊洲市場に行きました。嬬恋のキャベツ担当の方の案内で主に青果棟を視察しました。以前の築地市場と比べると、築地市場が小さく乱雑で機械化や経費節減の妨げになっていたとの事でした。嬬恋村も同じで、改めて農地の集約・集積の必要性を感じた研修でした。

とや、就労年齢が50代であること、半数以上が專業農家であることには驚かされました。ただ、各圃場が小さく乱雑で機械化や経費節減の妨げになっているとの事でした。嬬恋村も同じで、改めて農地の集約・集積の必要性を感じた研修でした。



三浦市の圃場

農業委員会視察 研修に参加して



農地利用最適化推進委員
干川 初枝

12月3日・4日に、豊洲市場・三浦方面へ県外視察研修に行つてきました。一日目は、三浦半島の最南端にあり、年間平均気温は16.5℃で冬は暖かく夏は比較的涼しく、平均年間2.5毛作のようです。畑は区画整理されておらず面積も少ないので作物の回転を早くするようにして、春キャベツを中心作り一部の畑ではキャベツとキャベツの間に夏野菜を植えることもあるようです。

春キャベツは5月いつぱいまでで、遅くとも6月20日頃までには収穫が終わるそうです。三浦と聞けば、三浦大根を連想しますが昭和54年に大きな台風が襲来し、三浦大根がほぼ全滅したそうです。それに代わり青首大根が増え、今ではほとんどが青首大根になっています。また、嬬恋同様鳥獣害の被害があ

り、イノシシは出ませんが台湾リスの被害が多くアライグマと12月下旬になるとヒヨドリの被害がひどくなるそうですが開場2ヶ月たらずなのできれいで通路が広く作つてあります。三浦市農協での会議が終わり、外へ出るとキャベツと大根の植えてある畑があり、農家の方がプランターでキャベツを植えている所を見ました。そこでびっくりしたのは、プランターで植えている苗が大きく畠は低く、また大根の株間と畠の間隔が狭い事でした。嬬恋村ではやらない、出来ない畠、株間であり、その土地によつて色々な農業のやり方があるという事を知り有意義な視察研修でした。



圃場に植えられているキャベツの苗

無断転用防止！大切な農地を守ろう！

農地転用とは・・・農地を農地でなくすこと、すなわち農地に区画形質の変更を加えて住宅用地や工場用地、道路などの用地に転換することをいいます。

定例農業委員会 每月17日前後に開催します。申請書の受付締切 每月定例会開催日の7日前までにご提出下さい。

詳しくは嬬恋村ホームページに掲載しています。

お問い合わせ先 嬌恋村農業委員会事務局 TEL 96-1256・FAX 96-1979

「農地の利活用に関する調査結果です。ご協力頂きましてありがとうございました。」